



## 元旦与稻草绳

到了12月中旬。而一过25号，点缀圣诞节的装饰便会一齐撤走，大街小巷一下子便会换上庆祝元旦的装束。

以往，12月13日是进入新年准备的第一天，因此这一天也被称为“正月事始日”。在这一天里，人们要为采集制作门松用的竹子以及松枝、还有元旦用的柴火而进山，并且还要进行岁末大扫除。直到今天，神社等地方，仍然要在这一天里例行大扫除。

本来，庆祝元旦是迎接年神降临到各家各户的一个十分重要的活动。所谓“年神”，指的是五谷之神，人们通过对年神的祭祀，来祈求在新的一年里五谷丰登。不过，据说也有的地区将年神看作是护家佑人的祖先神灵而进行祭祀。

现在还保留着在元旦进行各种装点的习俗，便是那时传下来的。门松是年神降临时落脚的地方；稻草绳用来除污避邪、洁身净气；圆形年糕则是供奉神祇的供品。

人们将许多美好的愿望寄托在元旦的装点上。这一期，我们就为您介绍一下扎在稻草绳上的那些添饰所蕴含的意义。

- ・里白（一种凤尾草）…取其旧叶新枝一同成长的特征，以表长寿。
- ・酸橙…取其“だいたい（代代）”之音，以表儿孙满堂、世代昌盛。
- ・海带…取其“よろこんぶ（欢喜）”之音，以表好事连连。
- ・龙虾…取其“弯”的特征，以表活到连腰都发弯时。

每到年末，神社都会摆摊卖扎好的稻草绳，扎得简单一些的，在超市或便利店等地方

## お正月としめ飾り



12月も半ばになりました。25日を過ぎるとクリスマスデコレーションが一斉に外され、街は一気に正月のモードに入ります。

一昔前までは12月13日は正月の準備を始める日で「正月事始め」と呼ばれていました。門松を作るための竹や松、お正月に使う薪などを取りに山へ行ったり、家のスス払いを行う日でした。今でも神社などではこの日にスス払いの行事があります。

元々、正月は家にやってくる年神様を迎える大変重要な行事でした。「年神」というのは穀物の神様で、年神様を祀ることで、新しい年の豊作を祈願します。一方、年神様を家を守ってくれる祖先の霊としてお祀りする地方もあつたようです。

現在も残っている正月の様々なお飾りはその時代の名残だということです。門松は年神が降りるところ、しめ飾りは不浄を払って清めるもの、鏡餅は供え物を表します。

お正月のお飾りには様々な願いが込められています。今回はしめ飾りの添え物の意味を紹介したいと思います。

- ・裏白（シダの一種）…古い葉と共に新葉が伸びていくの意で長寿の意
- ・橙…だいたい（代々）とかけて子孫繁栄の意
- ・昆布…よろこんぶ（喜ぶ）とかけて良いことがあるの意
- ・伊勢海老…海老のように腰が曲がるまで生きるの意で長寿の意

しめ飾りは年末になると神社の屋台などで売られますが、簡単なものでしたら、スーパーや

就可以买到。小型的稻草绳，大约只须 500 日元左右。

稻草绳是装饰在大门或正门入口处的。据说在 28 日以前装饰完毕比较好。29 日有着“二重苦”的意思；而 31 日则被认为是一夜饰（不吉利）而遭到人们忌讳。1 月 7 日吃完七草粥以后，元旦装点就该被撤下，归到一处，并拿到神社里边去烧掉。

(K)



コンビニなどでも手に入れることができます。  
 小さなものなら 500円くらいから手に入るよう  
 です。

しめ飾りは門や玄関などの出入り口に飾ります。28 日までに飾るのがいいとされています。29 日は「二重苦」、31 日は一夜飾りといわれ避けられます。1 月 7 日の七草粥を食べたあと、お飾りを外し、集めて、神社の境内で焼いてもらいます。

(K)

\*\*\*\*\*